

四谷の

千枚田だより



第 60 号

ジイと鳴き 稲のかおりて 風わたる
千枚の思いを集む 田毎の瀬
由利子 歩

開催テーマ
みんなで語ろう
千枚田の未来



第十四回全国棚田(千枚田)サミットが雲仙市・長崎市で開催される山肌に棚のように重なり、その曲線美を見せる四季折々の棚田景観の美しさは、日本の原風景として日本人の心に潤いと安らぎを与えてきました。しかし、その棚田は、経済効率重視や担い手の減少などにより荒廃化が進み、今や存亡の危機に直面しています。

こうした背景の中で、多くの賛同者が集い、棚田を守り後世に残していこうとする動きが、着実に大きな輪となって広がろうとしています。

そこで、全国の棚田(千枚田)を有する市町村、棚田保全に取り組み団体・個人が一堂に会して行われるのが、第十四回全国棚田(千枚田)サミットです。ここでは、環境保全や生産の場としての水田、文化遺産としての棚田保全の意義や必要性をお互いに理解しあい、都市住民など多くの国民の理解と合意を得て、本格的な中山間地域の維持活性化につなげようとしています。

開催期間 平成 20 年 10 月 16 日(木) ~ 18 日(土)

日程	内容	会場	
10月16日 (木)	基調講演「みんなで語ろう、棚田の未来」 (東京農工大学教授 千賀裕太郎氏)	アリーナ かぶとがに (長崎市)	
	事例発表(長崎市立神浦小学校児童)		
	大中尾棚田見学会	長崎市外海地区	
10月17日 (金)	清水棚田見学会	雲仙市千々石町	
	分科会 〔第1分科会〕 棚田と環境・教育 (棚田学会理事、棚田ネットワーク理事 安井一臣氏) 〔第2分科会〕 一般市民参加による棚田保全 (立正大学准教授 堀田恭子氏) 〔第3分科会〕 地域づくりと棚田の継承 (熊本大学教授 上野真也氏) 〔第4分科会〕 棚田地域での生産と販売戦略 (マーケティングプロデューサー 平岡豊氏) 〔第5分科会〕 百姓と共に語ろう日本の農業 (NPO法人農と自然の研究所代表理事 宇根豊氏) 首長会議 「中山間棚田地域の再生」 (棚田学会会員、早稲田大学名誉教授 中島峰広氏)	雲仙市内	
	全体交流会	雲仙メモリアル ホール	
	10月18日 (土)	事例発表(雲仙市立千々石第二小学校児童)	雲仙メモリアル ホール
		分科会発表(中島峰広氏)	
		共同宣言(実行委員会会長 雲仙市長)	
次期開催地挨拶(新潟県十日町市長)			
	市内視察	各視察地	

林間学習

東海市立大田小学校五年生七十七名は、「団結！心を一つに」をスローガンに鳳来寺山麓の東海市「山の家」で三日間の共同生活を実施。

二十七日の千枚田の学習では棚田を見学、調査することで、豊川の源流にあたる水の様子、その水が水田にどのように稲作などの農業に役立てられているかを調べました。



生徒代表「美味しい空気と素晴らしい景色を有り難うございました。また、両親や兄弟で訪ねて来たいです。案山子立て

八月九日、名古屋北ロータリークラブは招待した慈友学園の子供達と楽しく植えた田んぼに案山子を立てました。

生育調査

八月九日、豊橋調理製菓専門学校は実習田の水稻の生育調査を実施しました。

有害鳥獣駆除

田畑を荒らし回った大イノシシを捕獲！「こんね、小さな檻に百kgもあるやつが、どうやって入ったずらかのん」と自慢げな猟師村雲宣充さん



捕獲したイノシシは雄のイノブタで手厚く埋葬しました。

在来イノシシは春仔で二〜三頭が産まれる。産まれても「うり坊」を好むキツネやタヌキの餌食になり成長する個体数は限られていた。

繁殖力旺盛なブタは年に二回(妊娠期間約百十四日)、それも、一度に八〜十頭生産されるように改良されている。

そんな、繁殖力旺盛なブタが野生化してイノシシと夫婦になり年に二回も出産。猪口密度を増やし、生活のために、作物を荒らし回る(猪は決して荒らしているとは思っていないと思うが...)。

サルやイノシシに生活圏を脅かされている我々住民は、その被害に限界を感じている。もう、蠅やアブと一緒に、追い払うだけではイタチごっこだ。「獲らにやあ、しょんない」と、市の補助金を得て檻を各所に設置、それなりの捕獲効果を収めている。

最近の捕獲状況(四谷地内)

七月十八日 六頭(二つの檻うり坊) 同
八月一日 一頭(三十kg一歳) 同
八月二日 一頭(百kgイノブタ)

念仏踊り

室町時代から継承されてきた念仏踊りが八月十三日、身平橋の西組共進連と中老衆が海源寺で本尊様の供養。十四日は稲熊富平さん宅で新盆供養が、方瀬真菰では石川和幸さん、内藤成志さん宅の新盆供養が方真連と中老衆で行われました。

「むらの伝統文化顕彰」伝統芸能編の部」において身平橋の念仏踊り

「はねこみ」は上位にランクされており。



はねこみ

げなげな唄

ほい、知つとるかん・なによお・寛政年中(二七九〇年)にやあ、与良木の溜水の大工サ、藤兵衛サがやあ、段戸の弁天谷、金所かなところ学(校林)でやあ、銅鐸一枚を振り出したつちゆう唄じゃないかん...ふん、そりよお、今じゃあ一宮の砥鹿神社の紳宝で奉つとるだけなだぞん。大工サが掘つたつちゆうこたあ、山芋堀りにでも行つたづらかのん。

行 平成二十年八月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文責 小山舜二